

2002年12月1日「第13回国際開発学会」
セッション11「PRSPと日本の貢献」

PRSPの多様化
Diversifying PRSP
成長志向型貧困削減のモデルとしてのベトナム

政策研究大学院大学（GRIPS 開発フォーラム）
大野泉 二井矢由美子

初期の PRSP 経験

各途上国の個別事情を考慮した、多様性・柔軟性ある開発アプローチの必要性

- 戦略・政策の中身
- 制度構築

PRSP を現実的・実効的な開発アプローチとするために必要な、各途上国を考察する主な視点

- 制度的側面（開発計画との関係、援助協調の歴史など）
- 国際金融システムとの関係（HIPC、資金動員のオプション・制約条件など）
- 開発戦略面（貧困の原因、発展段階など）

ベトナム版 PRSP の特徴

- 包括的な貧困削減成長戦略書（Comprehensive Poverty Reduction and Growth Strategy: CPRGS）、強いオーナーシップ・自立性
- PRSP 「補完型」、国家開発計画（10 カ年戦略、5 カ年計画）が基本文書
- 開発ビジョン「公正な成長」「工業化と近代化」、予算・公共投資計画（PIP）との関係
- 今後の課題（成長戦略の具体策の弱さ、既存制度を踏まえつつ戦略策定能力を強化する必要性）

ベトナムの経験の移植可能性(特にアフリカでの次世代 PRSP の展開への示唆 / タンザニアの事例)

- 次世代の PRSP 策定をとりまく環境（共通点、新たな変化）
- 戦略・政策面の課題（貧困削減の前提となる成長を達成する方策の検討）
- 制度構築面の課題（成長戦略を策定のための機能強化への支援）

別添： パワーポイント資料